

# 中高一貫だより

<編集・発行>  
えりも地区連携型  
中高一貫教育  
推進委員会事務局

## 「個別最適な学び」、「協働的な学び」の推進

えりも地区連携型中高一貫教育推進委員長(北海道えりも高等学校長) 村 木 宗 徳

中高一貫教育は、6年間の計画的・継続的な教育活動を行うことで、生徒の皆さんの個性を伸ばすことができます。また、高校入試の影響を受けずに、ゆとりある安定した学校生活を送ることができたり、異年齢集団による活動を通して、社会性や豊かな人間性を育むことができたりする、などの特色があります。

北海道では、2校の中等教育学校(中高一体型の形態)並びに、えりも中学校を含む9校の中学校と、えりも高等学校を含む6校の高等学校がそれぞれ連携した連携型の中高一貫教育が推進されています。

とりわけ、本町においては、中高一貫教育の基本理念を「地域の教育力の結集による、生徒一人一人の夢の実現」として、中学校と高等学校が地域を交えて緊密に連携し、えりも地区の生徒の確かな学力、豊かな人間性、たくましく健康な心身を育成することを目指すとともに、幼児教育と小学校教育との連携や小中高が連携した教育活動、関係団体と学校が連携した社会教育の推進を図るなど、まさに地域が一体となった教育活動が行われています。

さて、社会の在り方が劇的に変わる Society5.0時代の到来や、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な予測困難な時代にあっては、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められています。

そのために、えりも高等学校では、中高一貫教育を軸とした異年齢集団による教育活動や地域社会での体験活動、ICTを活用した空間的・時間的制約を超えた学び合い等により、「個別最適な学び」、「協働的な学び」を一層推進し、生徒の成長やつまずき、悩みなどの早期理解に努め、個々の生徒の興味・関心・意欲等を踏まえたきめ細かな指導・支援に努めて参りたいと考えております。

## 学力向上に向けた取り組み

えりも中学校とえりも高校間で行われている中高一貫教育

推進事業では、「えりもの子」の学力向上を軸として、学校間の授業交流を柱とする種々の取組を行っており、今年度で18年目を迎えました。5月に中学と高校の先生方がえりも中学校に集い、今年度の学力向上に向けた取組について話し合いました。「えりも高校がえりもの教育の最終章」を肝に銘じ、今年度も中高の連携を教育に生かしていきます。紙面の都合で一部とはなりますが、教科に関してそれぞれの取組の概要を紹介いたします。

【国語部会】本年度から通年で週に2回、高校教員が中学校の全学年の授業に入ります。夏休み以降は、複数の高校教員による中学生への授業も計画しています。また、入試対策として、高校教員による中学3年生への授業も予定しています。さらに、外部試験の結果分析により、中高が連携し、それぞれの校種で伸ばすべき力を明確にし、授業改善を行います。

(佐藤竣)

【社会科・地歴公民科部会】環境教育「百人浜に学ぶ」の他、中学生の学力と学習状況を把握することを目的に、5月にアンケートとミニテストを行いました。知識・理解や思考力など、多角的な評価のため、回数を重ねる予定です。この実践が中学生の学習習慣の定着や質的向上につながるよう、中高担当者でこれまで以上に密に連携していきます。(倉内)

【数学部会】今年度は高校教員が週4回中学2年生の授業に入ります。生徒の状況に合わせ、TT形式や習熟度別授業等、柔軟に対応していきます。また、2月には中・高の教員が合同で、進路希望に応じた習熟度別授業を行う予定です。中高一貫の強みを生かし、進学後スムーズに対応できる力を養います。

(福田)

【理科部会】理科部会では基礎学力の定着を図るために各種テストの活用を図ります。また、中学生へのえりもの歴史的背景を後世に伝える「百人浜に学ぶ」を通して、自然環境の保護の大切さについて学びます。さらに、中高連携入試に向けた、高校教員による中学生への授業も行います。(大竹)

【英語部会】今年度も生徒のスピーキング能力の向上に力を入れていきます。スピーキングテストや英検二次対策などの補助に当たり、生徒の言語運用能力を高めていきます。(山上)

【保健体育部会】今年度も中高生の体力向上をねらいとして、中1から高3まで新体力テストを実施しています。その結果を分析し、課題に応じた体力向上の取組を行います。また、中高生でソフトボールやサッカーの合同体育授業を実施し、生徒同士の教え合い・学び合いの活動を行います。(田中)

